

ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



商標登録第 4882482 号

第71号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
東京都東村山市久米川町1-16-18
TEL : 042-395-9788
FAX : 042-395-9787

古紙輸出が半減？ 二〇〇万トンの古紙が余剰！

話は一旦、一九九〇年代初頭にさかのぼるが、当時古紙回収率は五〇%、回収量は一、五〇〇万トン程度だった。平成に入り、各地自治体で分別収集が広がり、二〇〇〇年代初頭には回収率が六〇%を超え、回収量も二、〇〇〇万トンを超えるまでになった。このことは、可燃ごみの減量に大きく貢献することになった一方、我々再生資源業界にとっては、増え続ける回収量を国内製紙会社では吸収しきれず、古紙が余剰、暴落し、苦しい時期でもあった。二〇〇二年頃より古紙の海外輸出が本格的に始まると、余剰分古紙が海外でリサイクルされるようになり、古紙の相場、需給は安定するようになった。リーマンショックの際には一時大暴落したこともあるが、価格的にも輸出量も順調に推移し、二〇一六年には、日本国内で回収される古紙はおよそ二、一〇〇万トン、そのうち二割にあたる四〇〇万トンが中国をはじめとする海外に輸出されるまでになった。逆に考えると、およそ二割は海外に輸出しないと需給バランスが保てず、古紙が余剰してしまう状況になっている。また、輸出価格は、残り八割の国内相場にも影響を与えており、指標

となる月末の関東製紙原料直納商工組合の輸出価格が出た後に翌月の国内価格が決定される。前置きが長くなったが、いよいよ本題。本誌の六九号でも触れたが、古紙の主要な輸出先であった中国が昨年末に未選別の古紙やプラスチックなどの廃棄物の輸入を規制し、新規の輸入ライセンスの発給を制限すると通告した。これにより、昨年一

二月の中国の古紙輸入量は九五万トンと前年同月より六割以上も落ち込み、二〇一七年の古紙輸入総量は二、五七二万トンと前年より一割減となった。業界紙によると、今年にはさらに輸入量が減り、一、七〇〇万〜二、一〇〇万トンとなるの見通しもある。二〇一七年の日本からの輸出量も三七三万トンと例年に比べ約一割減少しており、今年に入ってから関東商組の古紙輸出は不調のまま再開されず、その他の商社経由の輸出も芳しくない。四〇〇万トンは輸出しなければ回らないのに、このまま行くと今年の古紙輸出は半減の二〇〇万トン程度に落ち込むとの予測もある。すでに、行き場を無くした古紙が国内製紙会社にも在庫があふれており、荷止めが相次ぐ事態となっている。また、三月一日からは、中国の輸入

廃棄物原料環境保護規制基準(G B基準)が強化され、古紙の異物混入率の許容範囲は一・五%未満から〇・五%未満と厳しくなった。これは、古紙センターの品質基準(禁忌品A類の混入は認めない、B類の混入は新聞、段ボールで〇・三%未満、雑誌・雑がみで〇・五%未満)に比べれば同等以下であるが、MIX古紙の輸入は認めていない。つまり、品質面では日本の古紙はそこまで心配は要らないと思うが、雑誌・雑がみの輸出、需要の動向が懸念されている。今後の情勢次第では、雑がみとして多く混ざっている台紙やクラフト紙の除去や分別指導も必要ではないかとの声もある。

中国が何でも買ってくれた時期には、難古紙と言われるリサイクルに向かない古紙まで回収し、MIXとして輸出してしまうような業者も出てきたが、結果として行き場を無くす事態となった。当組合では、市民の皆様との協力のもとに、分別の徹底をお願いし、出前講座なども開催しながらリサイクル可能な古紙回収率の向上に努力してきた。今後この循環を止めないよう、行政や国内の製紙会社とも協力しながら、現状六四%に留まる古紙の利用率向上を求め、引き続き全量リサイクルに取り組んでいく。(吉浦)

リサイクル適性(A)

直言拝聴リレートーク

今回の直言拝聴は、当組合創立25周年新年会の際に行ったりサイクルリレートークにて、各業界をリードする方々から伺った貴重なお話を掲載させていただきます。それぞれの品目ごとに需給や相場などの現状と今後の展望ということでお話をお伺いしております。

- ・古紙 公社) 東京都リサイクル事業協会 理事長 (当組合の上部団体) 全国製紙原料商工組合連合会 理事長 栗原 正雄様
- ・包装容器関連 東多摩再資協賛助会員 東京容器包装リサイクル協同組合 代表理事 戸部 昇様
- ・鉄・非鉄金属 //
- ・古繊維 //

【古紙について】

全国製紙原料商工組合連合会

理事長

栗原 正雄様



現在の紙のリサイクルは、中国の輸出先として左右されている。中国は、昨年までは、先進国から、およそ二、六〇〇万トンの古紙を輸入していた。しかし、中国は、この度、選別されていない再生資源の輸入禁止策を打ち出し、さらに二〇二〇年までの再生資源回収スケジュールの中で、二〇一五年には中国全土で五、三六五万トンの古紙回収量を、五年間で一億トンの増やすという施策を、国内の各省・各市に通告したという。このため、将来的に先進国からの古紙の輸入がストップする可能性が出てきた。また、昨年八月の中国の古紙価格は、これまでの三倍に上昇し、トン当たり五五、〇〇〇円〜六〇、〇〇〇円となったが、その後、急落と上昇を繰り返して、現在は三五、〇〇〇円程度となっている。この結果、現在の中国国内では、古紙価格の上昇が、ごみ減量とリサイクルの推進を進め、先進国からの輸入費用がかからなくなるといふ考え方が主流となっ

て来ている。一方、日本では、古紙回収率八二%、古紙利用率六四%の現状の中で、年間二、一〇〇万トンの古紙を回収しているが、製紙メーカーの在庫能力は三〇万トシがなく、また、回収された古紙が、例えば様々なものが混入した雑紙のように、製紙メーカーで再生用紙を作るのになかなか品質基準が適しておらず、中国への輸出にまわる物が多いのが現状である。そうした中で、昨年一二月三日に中国からミックス古紙の輸入禁止が伝えられ、ミックス古紙が輸出出来なくなった。仮に現段階でミックス古紙が、雑誌・雑紙の名目で輸出出来たととしても、中国との品質基準の認識の違いで、いずれ輸出が出来なくなる可能性がある。このため、古紙回収業界では、二〇二〇年までに古紙利用率六五%を目標とする等、製紙メーカーと緊急協議を行って、この問題の打開策を検討している。

なお、栗原理事長は、この度の春の叙勲において、旭日中綬章を受章されました。業界としても名誉あることで、大変喜ばしく存じます。心よりお祝い申し上げますと共に、今後の更なる活躍を祈念致します。おめでとうございます。

【包装容器関連について】

東京容器包装リサイクル協同組合

代表理事

戸部 昇様



ガラスびんは、東多摩再資源化事業協同組合が創立された平成五年には、二四四万五千トンの生産量が一番多い時期で、回収率は五三%であった。現在は、回収率は七八%であるが、生産量は当時の約半分となつてしまった。内訳は、市町村の回収が約三〇万ト、容器包装リサイクル法関連で約二〇万ト、独自回収で約一〇万トとなっている。また、スチール缶の生産量は当時の約半分、アルミ缶の生産量は当時よりやや微増となっている。これは、現在に至るまでの間に、ペットボトルが参入して来たことが主な要因である。カレットは、いつも相当の残渣が出る物であるが、これは、カレット処理業者が、ヨーロッパ等から、高価な機械を導入してカレット処理をしていること等により、きちんと選別されていないと、カレット業者が引き取らないためである。リターナブルびんについては、現在、一升びんのリターナブル使用が非常に難しい問題となっている。

これは、一升びんを納める箱の不足で物流に問題が生じていること、一升びんを引き取ってくれていた町の酒屋さんがなくなり、酒売りのディスカウント店は引き取ってくれないという市場の変化が要因となっている。一方、ペットボトルは、現在では、プラスチック原料をメーカーに持ち込んでペットボトルを作る形となっており、輸送費用があまりかからないこと、輸送手段も、ペットボトルそのものを一万本運ぶとしたら、一ト車二台が必要だが、プラスチック原料を一万個運ぶとしても四ト車で余ってしまう位である。この先、ガラスびん・ペットボトル・缶等については、容器包装リサイクル法が変化するとともに、回収・生産等の仕事も変化していくと思うが、大切なのは、各市町村の中にあるリサイクルセンターとその機動力を生かしていくことが必要であると感じている。

【鉄・非鉄金属について】

長沼商事株式会社

代表取締役

長沼 浩様



粗鋼生産は、昨年は暴走の年と言っても過言ではなく、昨年一月

から現在までの価格市況は、一〇円/kgの上昇となっている。これは、世界的な経済回復が主な要因と思われ、IMFが発表した経済成長率では、二〇一七年が三・六%、二〇一八年が三・七%の成長となっている。二〇一八年の経済成長予測は、アメリカ二・三%、EU一・九%、中国六・五%、日本〇・七%となっている。本年は、朝鮮での有事予測以外は、リスクは見当たらず、粗鋼生産・スクラップとも堅調に推移するものと思われる。一方、中国の事情を見てみると、中国は世界の粗鋼生産の約半分(約五〇%)の八億トを生産(日本の生産量は約一億ト)し、地条鋼と言われる成分調整等の品質管理もなく、地面に埋め込んだ設備で粗鋼を生産する方法を行っている。しかし、この生産方法を行うと、国内できちんと製造した製品が輸出に回り、世界マーケットが下落する状況となったため、昨年、中国政府は、この地条鋼の生産方法を規制し、輸出関税四〇%の対策をとったところ、国内できちんと製造した製品が国内で回るようになった。アルミ缶は、現在、価格が二、二〇〇ドルと、リーマンショック時の一、七〇〇ドルよりは

回復しているが、在庫が五〇〇万トから一〇〇万トに減ってしまった。アルミ缶も、本年は、朝鮮での有事予測以外は、リスクは見当たらず、堅調に推移するものと思われる。

【古繊維について】

日本再生资源業協同組合連合会

古繊維部会長

キムラセイイ(株)

執行役員



古繊維には、中古衣料・工業用ウエス・反毛原料の三種類がある。このうち、工業用ウエスは、最近、原料となる古着類に新しい品質の物が使われていることが多く、綿の素材が激減しているため、製造に苦慮している。一方、中古衣料は、ほぼ海外輸出であり、主に東南アジアやアフリカ諸国に輸出している。しかし、この輸出事業も、相手国の輸入制限(輸入禁止等)や輸入関税の規制が厳しくなってきたのが現状である。また、中国は、他の資源物同様に、輸入制限が厳しくなり、特に冬物が輸出来なくなってきた。そのため、日本国内では、冬物の古着は反毛原料に回されるようになってきているが、反毛原料の価格が三割位下落していること、反毛原

料の引き取り業者が、引き取らなくなってきたこと等から、行き場を失っている現実がある。さらに、行政の資源回収の古布類は、品質が悪化してきている傾向にある。これは、古布の買取業者が増加し、特にデパート等の下取品を過熱気味に引き取る傾向があること、古布のユーザーがユーザーに販売する仕組みが出来ていること等から、売ろうとして売れなかつた物が、行政の資源回収に出されるという状態になっている。このような状況から、本年も、古布の価格は値上がりしそうな気配にはないと感じられる。

【お礼】

今回お話を伺いした皆様におかれましては、大変お忙しい中当組合創立二五周年記念新年会にご臨席頂き、かつ貴重なお話をお聞かせ頂き、本当にありがとうございます。昨年来、海外情勢の影響を受け激動の資源業界にあって、このような業界を代表する方々が当組合の上部団体や賛助会員として身近にいらっしやることは大変心強く感じている次第です。今後とも、変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。本当にありがとうございます。(TKO)

「激動の二五年を振り返る」 東多摩再資源化事業協同組合 創立25周年記念新年会

記念新年会を開催

当組合では、平成五年の発足以来創立二五周年を迎えたのを記念して、去る一月二十七日（土）に多摩湖畔の掬水亭にて創立二五周年記念新年会を開催致しました。

当日は、組合の顧問である衆議院議員木原誠二様、東京都議会議員谷村孝彦様、東村山市長渡部尚様、小平市長小林正則様を始めとする行政関係者、公益社団法人東京都リサイクル事業協会理事長栗原正雄様、東京都資源回収事業協同組合理事長松本貞行様はじめとする業界関係団体、東京多摩リサイクル市民連邦理事長小石恵子様を始めとする市民団体から多くのご来賓のご臨席を頂きました。

式典の部において、吉浦理事長



は、関係各位の皆様への感謝の意と、地域組合なればこそその社会的使命・情熱・地域愛をベースにした安全・環境・品質の面での組合のレベルアップへの決意を表明し歓迎のご挨拶としました。その後、東京都中小企業団体中央会から感謝状を授与されました。ご来賓の皆様からは、暖かいご祝辞を多数頂戴しました。ありがとうございました。

続く懇親宴では西武遊園地のイルミネーションを眼下に見ながら、食事を楽しみ、懇親を図ることが出来ました。懇親会の中で、リサイクルリレートークを企画し、ご来賓や賛助会員としてお越し頂いた再生資源業界を代表する方々に現在の市況・今後の展望をお話頂きました。式典、懇親宴とも大変盛り上がり、盛会のうちに閉会となりました。

また、展示イベントとして会場内に関連五市（東村山市、小平市、西東京市、東久留米市、清瀬市）のお酒やお菓子などの特産物を集めて展示し、皆様に試食や試飲をして頂き、最後にはお土産としてお持ち帰り頂きました。地元の間でも知らなかったような名物もあつたりしてこちらも大変好評でした。



この近隣五市には美味しいお酒
やスイーツがたくさんありますよ

この度の二五周年記念新年会を通して、行政、関連団体など多くの皆様のご指導、ご支援、ご協力のもとに二五周年間組合が運営してこられたことに改めて感謝の思いを感じると共に、これから先の五年、一〇年、さらに先へと組合が進化していけるよう組合員一同努力してまいります。

(W)

【来賓】挨拶（抜粋）

小平市長

小林 正則様



東多摩再資源化事業協同組合が創立された平成五年は、環境基本法が制定された他、小平市では、リサイクルセンターがオープンし、資源選別業務が開始された年であ

ります。また、この時期は、年々廃棄物の量が増加し、ごみ減量に向け資源化の取り組みが求められていた時期でもあります。東多摩再資源化事業協同組合におかれましては、組合創立以前から、長い間地域の清掃行政に資源化を含めた形で御協力・御尽力を頂いております。平成二九年四月には、災害廃棄物運搬等の協定を締結させて頂いた他、廃棄物減量等推進審議会には第一期から参加、環境フェスティバルにも毎年参加して頂いております。環境行政は将来に渡って一日も止められないものであり、その意味では、小平市にとって今後も東多摩再資源化事業協同組合は、極めて大事な存在でありますので、今後とも御協力の程、宜しくお願い申し上げます。

東村山市長

渡部 尚様



東多摩再資源化事業協同組合におかれましては、長い間に渡って東村山市のごみ行政に、深い御理解と御協力を頂いており、誠に感謝申し上げます。平成三年頃には、谷戸沢処分場の維持が、そろそろ厳しくなり、ごみ減量と資源化を

進めるしかない事となり、貴組合の指導を頂きながら議論したことを覚えております。その後、東村山市では、廃棄物の八分別回収を実施し、古紙・古布については、貴組合に回収をお願いしました。また、平成二六年一〇月からは、資源物も戸別回収が開始されましたが、このことは、貴組合の深い御理解・御協力がなければ出来ないことだと言わなければなりません。現在、東村山市は、貴組合と市民の御協力のもと、人口一〇万人以上五〇万人未満の都市で、ごみの減量化とリサイクル率が全国八位となっております。今後、東村山市が全国で最も進んだごみ減量・リサイクル都市になれるよう、東多摩再資源化事業協同組合と手を取り合って進んで行きたいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。

**東久留米市
環境安全部長
山下 一美様**



環境保全問題は、地球的規模で各種取組が行われている程の、重要なテーマであります。また、基礎的自治体である市町村のごみ行政の推進は、法令で定められてい

ます。東久留米市では、昨年七月に資源物の戸別収集化、一〇月には一般ごみの有料化を開始しました。特に資源物の戸別収集は、貴組合の深い御理解・御協力が必要でありました。今後、東久留米市は、資源循環型社会の構築に向けて、東多摩再資源化事業協同組合と協力して進んでいきたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

**組合顧問
衆議院議員
木原 誠二様**



東多摩再資源化事業協同組合創立の平成五年は、ごみ・リサイクル行政も進んでおらず、国際事情・経済事情も厳しい中、組合関係者の多大なる御努力によって、貴組合が創立されたことを、すばらしいことだと思っております。現在は、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックの全てのメダルをリサイクルの中から作り出す取り組みを行っております。これは、日本だからこそ、そして地域の取り組みだからこそ出来るものであり、資源リサイクルへの熱い思いの表れであります。また、本年もまだまだ厳しい経済状況が続

いておりますが、私始め国会議員は年度内の予算成立をもって経済状況の支えとなるように努めております。貴組合におかれましては、創立以来、資源リサイクルの様々な活動を行ってこられました。今後とも、地域に根ざした取り組みをより一層進めて行かれることを願っております。

**組合顧問
東京都議会議員
谷村孝彦様令夫人**



本日は、東多摩再資源化事業協同組合創立二五周年記念新年会が開催され、誠にめでたうございます。また、日頃より、東多摩再資源化事業協同組合におかれましては、東京都議会議員・谷村孝彦に対し、多大なる御指導を賜り、厚く御礼申し上げます。今後とも、さらなる御指導を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

西東京市長 丸山浩一様

ご祝辞披露

本日は、東多摩再資源化事業協同組合創立二五周年記念新年会が開催され、誠に悦ばしく思います。また、貴組合におかれましては、

日頃より、西東京市政に御協力・御理解を賜り、深く感謝申し上げます。創立二五周年を節目として、今後とも資源有効利用をさらに発展させるべく、貴組合と共に進んで参りたいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。

**東京都中小企業
団体中央会**

木部 明様



東多摩再資源化事業協同組合におかれましては、東京都中小企業団体中央会に対し、日頃より多大なる御支援を賜り、感謝申し上げます。貴組合が、東資協東多摩支部から組合を創立し、今日までの活動を支えたのは、紺野前理事長及び吉浦現理事長のリーダーシップと、組合員の献身的な支援の賜物であると感じています。この度、平成三〇年度の税制改正に伴い、事業承継制度が出来ましたので、貴組合におかれましては活用をお願い出来ればと思っております。

**東京都摩リサイクル
市民連邦 理事長
小石 恵子様**



私は、東多摩再資源化事業協同

組合発行の機関紙「ヴィーナス通信」の愛読者であり、毎号を送っていたいただき、とても感謝しております。紺野前理事長は、地元各市の廃棄物減量等推進審議会の委員や、東京都及び国の廃棄物関係の委員を務められ、廃棄物処理の将来を見据えた判断で、東多摩再資源化事業協同組合を創立されました。そして、資源リサイクルについて、もてるノウハウを地元各市と共有しながら、組合活動を進めていました。例えば、地元各市で回収した雑紙から、トイレトペーパー「ブーメラン」を作ったことが挙げられます。また、紺野前理事長から吉浦現理事長に引き継いだ後、吉浦理事長は、若い力の結束と新しい事業の開拓を目指され、中でもコンピュータを駆使したグローバルな活動は時代の先端を行くものです。さらに吉浦理事長は、資源持ち去り問題対策のノウハウを東京二三区から勉強されていきました。現在、再資源化(リサイクル)は複雑化し、3Rの時代となっており、地球環境をいかに守るかに重点が置かれています。東多摩再資源化事業協同組合におかれましては、今後もこれまでのような活動を続けて、地球環境を守って頂くようお願いいたします。

東京都資源回収

事業協同組合

理事長

松本 貞行様



東多摩再資源化事業協同組合の二五年間という長い年月の積み重ねは、雨の日も、風の日も、雪の日も黙々と資源回収を行い、市民の信頼を得てきたところにあるものだと思います。東京都資源回収事業協同組合(東資協)は、東京都内の資源回収業者の集まりであり、各エリアの地域組合とタイアップして活動しています。貴組合からは、紺野前理事長が東資協元理事長・日資連元会長を、吉浦現理事長が東資協元理事長・関資連現会長をそれぞれ歴任し、紺野琢生さんが日資連現青年部長を、福田雄二さんが東資協現青年部長を務められている等、資源リサイクル全体のことを考えて活動され、全国の地域組合からお手本とされています。

東多摩再資源化事業協同組合におかれましては、今後も、五〇周年、一〇〇周年と、引き続き全国の地域組合のお手本となるような活動の繁栄を願っています。

ご来賓の皆様、お忙しい中、

ありがとうございます。

集団資源回収団体に感謝状

去る二月二二日、ホテルグランドパレスにて、公益財団法人古紙再生促進センターの集団回収感謝状贈呈式が開催されました。この表彰は、古紙センターの関東地区委員会が一定の推薦基準を満たした団体に対し毎年感謝状を交付しているものです。今回は特にGPSによる古紙持ち去り追跡調査に協力している自治体に対し、関東製紙原料直納商工組合から推薦依頼があり、関連五市での古紙持ち去りGPS追跡調査実績のある東多摩再資源化事業協同組合から都営富士見住宅自治会様、滝山団地自治会様の二団体を推薦させて頂きました。当日、古紙センターの田口専務理事より各団体の皆様に感謝状と記念品が授与されました。両団体とも、長年にわたり集団資源回収に取り組み、環境保護と地域コミュニティの形成に多大なる貢献をして来られました。今後とも限りある資源の有効活用と地域の元気のために頑張ってくださいと思います。改めてこの度の受賞、おめでとうございます。そして、表彰式まで足を運んで頂きありがとうございます。

(TKO)



受賞者並びに推薦者と古紙センター関東地区委員会役員の皆様で記念写真

(公社)東京都リサイクル事業協会

リサイクルフォーラム・集団回収

団体表彰式・陽春の集い開催

去る二月一九日(月)、ホテルメトロポリタンエドモントにて、表記の式典が開催された。廃掃法の改正に関わる雑品スクラップ対策についての講演の後、会員組合から推薦された集団回収団体二団体と、市民団体として当組合新年会にもご臨席頂いた東京多摩リサイクル市民連邦が表彰を受けた。陽春の集いには、中川雅治環境大臣始め多くのご来賓の皆様を迎えて親睦を深めた。(福田)

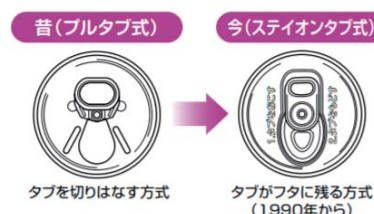


表彰式(写真上)と挨拶する中川環境大臣(写真下)

リサイクル掲示板

タブは外さないでリサイクル！

アルミ缶やスチール缶についている飲み口のふたのことを『タブ』といいます。以前は切り離されてしまう『プルタブ』式でしたが、1990年代にはほとんどがタブが取れにくい『ステイオンタブ』式に切り替わりました。プルタブ式時には、切り離れたタブをその場に捨ててしまう人もいて、それを踏んで怪我したり、野生動物が飲み込んでしまうなどの問題も起きていました。このため、現在のステイオンタブに切り替わることになりました。



① タブは取った方がいい？取らなくていい？

タブを無理に取り外すのはけがをする恐れもあり、危険です。タブを外さなくてもそのままリサイクル出来ます。むしろ、タブだけになってしまうと、アルミ缶のプレス機で潰した場合にうまくプレスできず、こぼれ落ちてしまうため、処理がしづらくなります。そのまま軽くつぶして頂くのがベストです。

② タブだけ集めたら車いすになる？

タブだけを集めて送ると、車いすが寄付されるという運動があるようです。ですが、タブだけを集めるのは大変。20~25kg貯まったら指定の運送会社の着払いで送ることが出来るようですが、20~25kgはタブにするとおよそ50,000~62,500個！しかも、800kg(タブがおよそ200万個)たまらないと車いすにはなりません。しかもせっかく集めたのにそこまで貯められないと、送料がかかってしまい、どうしていいか困っている方の話もよく聞きます。

アルミ缶の重さは350CC缶で15g、タブだけだと0.4g。タブを取らずにアルミ缶そのまま集めた方がタブだけよりも37.5倍の重量があり、たくさん集められます。

③ その他

アルミ缶、スチール缶をリサイクルする際は、中身をすすいで、軽くつぶして出しましょう。タバコなどの異物も入れないように注意して下さい。そして、磁石につくスチール缶と、つかないアルミ缶はしっかり分別して出しましょう。また、ボトル缶タイプ(ふたのついてるもの)は、中身をすすいで軽くふたをしめて一緒に出して下さい。



ま と め

- ① アルミ缶・スチール缶はタブを取らずにそのままリサイクルしましょう。
- ② 中身をすすいで、軽くつぶして出しましょう。
- ③ 磁石につくスチール缶、つかないアルミ缶は分別しましょう。
- ④ 詳しく知りたい方は、アルミ缶リサイクル協会、スチール缶リサイクル協会のホームページも合わせてご覧ください。

神奈川県資源回収商業協同組合創立七〇周年・青年部創立五〇周年記念式典に参加

二月一七日(土)ローズホテル横浜に於いて神奈川県資源回収商業協同組合創立七〇周年、青年部創立五〇周年記念式典が開催され、当組合から吉浦関資連会長、紺野日資連青年部長、福田東資協青年部長と共に参加した。

第一部は青年部、第二部は組合の式典が執り行われた。佐藤秀夫理事長が式典の挨拶の中で仰っていた「組合とは一人一人の信頼や出会い、組合を通じた人との繋がりが大切。」という言葉が印象に残った。



挨拶をする神奈川県資源回収商業協同組合佐藤秀夫理事長

記念講演を挟んで、大変多くのご来賓を迎えるの祝賀会が執り行われた。大会場溢れんばかりの出席者に圧倒された。楽し

い余興などもあり大変盛り上がり、盛会のうちに閉幕となった。長い歴史を持つ神奈川県資源回収商業協同組合の力強さ、パワーを感じた一日だった。組合員の方々に敬意を払い、今後のさらなる発展を祈念申し上げます。

記念講演

塩尻市役所地方創生推進課シテ
イプロモーション係長 山田崇氏

現場力！元ナンパ師の

行政マンの意識改革

長野県塩尻市職員である山田氏。シャッター商店街になってきている地元、大門商店街に賑わいを取り戻すために、想像ではなく実際に住んで商店街の現状・課題を知ることから始めるのが必要と考え、塩尻市役所職員の有志が自腹で月千円ずつを出し合い、就業後の自由な時間を使い、空き家を借りて、様々なイベントを仕掛ける空き家プロジェクト「nanoda (なのだ)」を立ち上げた。

二〇一三年四月から始めたこのプロジェクトは、商売の経験がほとんどない市の職員が実際に現場に触れてみて感じ商店街の人たちと協力し、「なのだ」と題した様々な企画を行う。一番力を入れて活動は大門商

店街のシャッターが閉まっている店舗を訪問し、「掃除させて下さい」と言って、掃除のあとにそここでご飯を食べるといいう「掃除なのだ」。営業していた時代の話を伺ったり、困っていること、今後どうしていきたいかを聞いたりする。その他、週末の朝みんなどで朝食を食べる「朝食なのだ」、地元産ワインを楽しむ「ワインなのだ」等を開催している。

市職員として活動するメリツトとして、「公務員はクビにならない。五年程左遷されれば済む。」「市職員という与信」がある。商店街の人たちは、失敗できないギリギリのところにいる。たとえ解決できなくても寄り添うのが自分の仕事であると語った。山田氏は行動を起こすときはいわゆるPDCAサイクルのうち、プランはさておき、小さなDo(実行)をしてみようと説く。小さなDo(行動)をすると必ずC(チェック)が入る。そこで、



講師の山田先生

Action(改善)をApologize(謝る)に変え、「そんなつもりじゃないんです」とすぐに謝罪し、新たなPlan(計画)を練る。優れた事業計画を立てるより、小さなチャレンジの積み重ねが必要だと。

彼の言葉からは、リーダーシップある人というより、当事者意識の塊という印象を受けた。新しいことにチャレンジするとき、前例や、狭い見識の中で出来ない理由を探しがちになってしまう。今、目の前にある問題にまぶつかって行動してみる。誰でも知っていることだが、実際にはこれが難しい。山田氏の言葉に背中を押された気がした。

最後に、自分の時間を使って行動を起こす以上パートナーは、一緒にいて気持ちの良い人。一緒にいたいと思う人がベストであるとおっしゃっていた。「ひとりじゃ円陣組めない」我々資源組合には、全国に仲間がいる。みんな小さなDoを起こして、業界が抱える問題や、未来に立ち向かっていきたいと思う。(K)

福田青年部長お疲れ様でした!

東資協青年部通常総会開催

四月一四日(土)、東京都資源回収事業協同組合青年部第二

四回通常総会が開催された。来賓として、東京都議会議員東資協顧問小松大祐様、次期日資連青年部長予定者の大河内崎資協青年部長、松本理事長始めとする組合三役、当組合より東資協相談役の吉浦理事長、小畑副理事長に御参加頂いた。

今回の総会で退任となる福田前青年部長は、挨拶の中で「始めは、自分に務まるか心配していたが、部員に支えられて、青年部長職を全うすることができた。青年部長をさせてもらえて良かった。素直に、人に感謝を伝えることができるようになった。皆様にもぜひ青年部長を経験して成長してもらいたい。」と後進に、明るい未来への道標を指し示すとともに、今後も親会の要職を務め組合、業界の発展に寄与する決意を語った。



仲條新部長(左)から花束を贈られる福田前部長(右)

第八代青年部長に就任した仲條嘉高氏は「今の東資協青年部のメンバーとなら、よりよい青年部にしていける。力を貸してもらいたい。」と決意を込めた。

挨拶をし、福田前部長より歴史あるバトンを受け取った。(K)

東多摩再資協青年部総会開催

去る四月二十七日(金)、第一六回となる通常総会が開催されました。昨年度は、上部団体である日・関資連、東資協青年部活動や親組合への協力といった活動が多くなりましたが、引き続き青年部長を務めることになった水野さんの元、今年度は、未来志向で東多摩青年部としての活動を行ってまいります。

懇親会では、今年で関資連会長を退任する吉浦理事長と三ヶ月いっばいで東資協第七代青年部長を退任した福田青年部顧問に対して、記念品を贈りました。組合としても創立二五周年の節目の年、青年部としてもこれから組合第三世代が入ってくるであろう変化の年として、益々活発に活動をしていきたいと考えております。(吉浦亜)



集合写真(上)と水野部長から記念品を受け取る福田前東資協青年部長(下)

市民団体主催フォーラムに参加

去る二月一八日(日)にNPO法人ごみ・環境ビジョン21が主催する市民ごみ大学セミナーに、三月一七日(土)に第二五回TAMAとことん討論会に参加しました。

市民ごみ大学セミナーは、『どうなる？古紙や廃プラスチックの資源循環〜海外輸出と国内循環をめぐって〜』と題し、(株)資源新報社の太田原覚氏から我々資源業界が直面している中国の問題を始め、興味深い講演を頂きました。

とことん討論会は身近な3R施設をテーマに、花嶋温子氏(大阪産業大学講師 環境学習施設を考える会副代表)による環境学習施設の全国的傾向についての基調講演、美住リサイクルショップ夢ハウス(東村山市)と北野余熱利用センターあつたかホール(八王子市)での事例報告、パネルディスカッションという流れで行われました。主催両団体始め市民の皆様と一緒に考え、勉強するいい機会です。今後ともよろしくお願います。(小畑)

●春～夏のリサイクル

イベント案内●

今年も、各市で開催されるリサイクルイベントに出展いたします。おもちゃ・ぬいぐるみ・育児用品・くつ・カバン・食器類などの小物雑貨の無料回収とリサイクル分別ゲームなどを行います。

- ① 西東京市環境フェスティバル
5月27日(日)10時～ @いこいの森公園
- ② 小平市ごみゼロフリーマーケット
5月27日(日)10時～ @市役所駐車場
- ③ 東大和市環境市民の集い
6月3日(日)9時45分～ @市役所駐車場
- ④ 東久留米市環境フェスティバル
6月9日(土)・10日(日)10時～ @市役所
※当組合は10日のみ出展します。
- ⑤ 清瀬の環境・川まつり
7月28日(土)10時～ @台田運動公園

※その他の出展内容等、詳しくは、各市の市報、ホームページ等をご覧ください。

青年部主催の施設見学会 古紙の自動選別機を視察

去る一月一六日、当組合青年部主催の施設見学会にて、(株)都市環境エンジニアリング様の京浜島工場を見学させて頂いた。こちらの会社は、主に複合商業施設やオフィスビルなどから出る廃棄物の保管室の管理運営から収集運搬、リサイクルを行っている会社で、私たちが見学した京浜島工場では、雑紙の選別、廃プラスチック類の選別加工を行っている。

現地では、まず営業部の及川次長様、山口工場長様より会社についての説明を受け、質疑応答をした後に早速工場を見せて頂いた。

ビニール袋に入れられた状態で回収されてきた紙ごみはまず受け入れヤードに下ろされ、そこからシヨベルにて破袋機に投入される。その後、大きなごみは手選別ラインで二名の作業員の方によって選別され、ディスククリーンの振動と隙間により小さな夾雑物を選別した後、光学式選別機に送られる。光学式選別機の中では、毎秒3mで動く高速コンベアで雑がみ類が送られる中、二列の光源と検出器により異物を検出、コンベアの先

にあるエアノズルで異物を吹き飛ばし選別するというものだった。選別後の雑紙はパッカー車に巻きこみ、提携する古紙間屋にてプレス加工を行うそうだ。また、およそ二割が夾雑物として選別され、RPFの原料としてリサイクルされている。夾雑物は、プラスチックが多かったが、紙類もけっこう混ざっていた。それでも、元々『紙ゴミ』として可燃ごみで処理をしていたのを雑がみ類を選別して、うち八割をリサイクルすることができるわけだから、古紙の回収率向上にも寄与しているし、素晴らしい施設だと思った。

現在の選別機では、表面だけを光学式に判別するため、紙質までは判別できないこと、数百種類のものを記憶されることが出来るが、そこまで選別が出来ない、金紙・銀紙、カーボン紙、割りばしなんかは判別できないなど、我々が普段の作業に導入するにはコスト面も含めまだ課題があると感じた。



毎時2トンの処理能力
のある
光学式自動選別機



(株)都市環境エンジニアリング
京浜島工場入口にて

こうしたAIを利用した技術の進歩により、分別の精度、処理量や処理速度の向上が望めれば、私たちの会社でも回収効率の向上や選別品質の向上につながっていくかもしれない。(TKO)

東資協新年賀詞交歓会

去る二月三日(土)、東京ガーデン



新年会に花を添えて頂いたフラメンコダンサーの皆様
の圧巻のステージ

故菅澤和志様を偲んで

(公社)東京都リサイクル事業協会 副理事長
東京硝子原料問屋協同組合代表理事として、広くリサイクル業界全体の発展に永きに渡ってご尽力された菅澤和志様が去る二月八日、ご逝去されました(享年六十八歳)。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

業界の社会的発言力を高めようと、業種業態を超えて大同団結を志向しはじめたのが、平成四年の東京都清掃局の業界実態調査がきっかけでした。菅澤さんは当初よりこの動きに参画。多忙な社用の合間をぬって、どこにでも駆けつけ、行政や都民の架け橋にならんと精力的に社会的活動をされてこられました。温厚なお人柄、相手を慮った大局観のある言動等々、振り返れば菅澤さんは私たちの大きな精神的支柱でした。資源持ち去り問題の根絶や東京オリンピックの資源化事業を必ず成功させ、天国から見守って下さる菅澤さんに報告したいと思っています。(G)



組合の安全に対する取り組み

資源回収車両運転者安全講習会

平成二九年一月一日(水)、東村山市民センターにて資源回収の運転者を対象に行われました。吉浦理事長挨拶の後、来賓である、東村山市資源循環部ごみ減量推進課課長田口輝夫様、東久留米市環境安全部ごみ対策課課長中谷義昭様、西東京市みどり環境部ごみ減量推進課清掃係技能長岩崎都泰様よりお言葉を頂戴し安全講習会が始まりました。

紺野専務理事から業務車両における事故の傾向について、あなたにとって資源回収のプロとは？組合内での行政回収中の事故の傾向などの説明があった後、水野青年部長の進行で、「交差点」、「バック進入」でのヒヤリハットや危険予知活動をテーマにして回収車両運転者によるグループディスカッション形式で講習会が行われました。

この講習会で回収車両運転者の安全に対する意識がさらに高まったことと思います。(栗原)

リサイクルセンター構内作業員

安全講習会

平成三〇年三月一〇日(土)に小平市福祉会館四階小ホールにて、リサイクルセンター構内作業員を対象



構内作業員安全講習会の様子

にした安全講習会が行われました。開会の辞の後、代表理事挨拶、永年勤続表彰、小平市環境部資源循環課課長補佐の市川正巳様よりお言葉を頂戴し、趣旨説明がありANAビジネスソリューション㈱ヒューマンエラー対策専属講師の池上義博様による「ヒューマンエラー対策」の講義が始まりました。

ヒューマンエラー(人為的過誤やミスのこと)対策の目的から始まり、基本的な考え方、なぜエラーをゼロに出来ないのか?エラーが事故に至る経緯、ヒューマンエラー防止法に至るまで九〇分程の時間でしたが、非常に濃い内容でした。

ヒューマンエラー対策は知識を身につけるだけでなく自らの行動を変えられることが大切で、『わかる↓かわる』と言うことでした。この講習会を日々の作業に活かしヒューマンエラーによる事故や怪我が少しでも減る事を願っております。(栗原)

故 西内幸雄氏(小平市リサイクルセンター長)を偲ぶ



平成三〇年二月七日夕刻、小平リサイクルセンターの加藤副センター長より電話が入った。「西内センター長が、自室で亡くなっています。」何かの間違いであってほしいと祈りながら駆け付けたが、現実には覆らず絶句した。

五日の朝八時ごろ、「三八度ほど熱があるので休みます。これから医者に行ってきます。」と本人から電話があり、それが最後となった。

彼は、毎日夕方になると、その日のセンターの出来事を電話で報告してくれた。どんな小さなことでも、異常がなくても報告してくれた。それが、六日、七日と連絡がないので、インフルエンザでなければいいかと案じていたが、最悪の事態となってしまう。ひと言「寒い苦しい」と電話をしてくれたら、もう少し早く気づいてやれたら、と悔やまれてならない。残されたお母様はじめご家族のご悲嘆を察すれば、お慰めの言葉もなく、ただ己の無力を悟るばかりだった。お母様は、愛息の通夜告別式と健気にふるまっておられたが、出棺の時は堪え切れずに泣き崩れ、参列者も皆涙して見送るだけだった。あの時、母に寄り添って必死に支えている彼の姿が見えたような気がした。「おふくろ ごめんな」と何度も詫びている彼の姿が・・・

西内氏は、柳泉園RCそして小平市RCと、二〇年余りに亘って組合職員として務めて頂いた。事業に対する貢献度、従業員からの信頼度も高く、特に、小平市RCのセンター長に就任してからは、四〇人からの従業員を束ね、小平市や組合との連携も見事に果たし職務を全うして頂いた。享年四八歳と、まだ沢山やり残したことがあり、どんなにか無念だったと思うが、あなたの残した功績は、仲間たちが今しっかりと引き継いでおり、あの男気と人なつっこい笑顔は、いつまでも皆の心の中に残るものと思う。来春は、小平市リサイクルセンターも新設され、新たな出発となるが、どうぞこれからも、センター事業の行く末を、そして仲間たちの活躍を見守っていて頂きたい。長い間のご尽力に衷心より感謝申し上げます、ご冥福を祈る。(合掌)

顧問 紺野 武郎

東村山市と災害時支援協定を締結

去る三月二十九日、東村山市役所いきいきプラザマルチメディアホールにて、東村山市と東村山市環境整備事業協同組合並びに当組合で、『災害時における廃棄物処理等に関する協定』を締結した。

当日は、渡部尚東村山市長、環境整備組合加藤代表理事、当組合吉浦理事長の三者が並んで協定書にサインをした。吉浦理事長は、当組合が東日本大震災、常総市での豪雨被害、熊本地震などでの支援活動を行ってきた中で、東北の組合員の方が、『震災直後は瓦礫等で道も塞がれていて、自衛隊の方々も被災地に入れる状況ではなかった。我々地元のリサイクル業者が道を切り拓いて、支援車両が入れるようにした』という話を引用し、万が一、この地域で何かあった時は協定に基づき、率先して我々が動くという決意を表明した。



協定書を手に固い握手をする加藤代表理事、渡部市長、吉浦理事長(左から)

行事・行動

【平成三〇年一月】

- 五日：仕事始め
- 六日：小平RC責任者会議
- 十日：東大和市廃棄物減量等推進員会議
- 十五日：定例理事会
- 十六日：都市環境エンジニアリング東京浜島工場視察
- 十七日：東京都市リサイクル事業協合理事会
- 十九日：古紙持ち去り問題意見交換会
- 二十五日：小平市リサイクルきやらぼん
- 二十七日：組合創立二五周年記念新年会
- 三〇日：清瀬市廃棄物減量等推進審議会

【二月】

- 二日：小平RC責任者会議
- 三日：東資協新年会
- 六日：西東京市廃棄物減量等推進審議会
- 七日：東大和市廃棄物減量等推進審議会
- 十二日：定例理事会
- 十七日：神奈川県資源回収商業協同組合創立七〇周年
- 十八日：市民ごみ大学セミナー
- 十九日：GPS調査

- ：東京都市リサイクル事業協会フォーラム
- 二〇日：西東京市集団回収団体意見交換会（講演）
- 二一日：福利厚生委員会
- 二二日：集団回収団体表彰式

【三月】

- 二三日：RC責任者協議
- 五〇八日：官公需共同受注検査
- 九日：小平RC責任者会議
- 十日：RC安全講習会
- 十二日：財務委員会
- ：定例理事会
- 十五日：東資協青年部臨時総会
- 十七日：TAMAとことん討論会
- 二一日：業務委員会
- 二二日：清瀬市廃棄物減量等推進審議会

- ：小平市リサイクルきやらぼん
- 二三日：東村山市廃棄物減量等推進審議会
- 二四日：日資連青年部臨時総会
- 二六日：RC責任者協議
- 二八日：業務委員会
- 二九日：東村山市防災協定締結式
- 三一日：組合研修旅行

【四月】

- 六日：小平RC責任者会議
- 十一日：定例理事会
- 十二日：西東京市受託業者会議
- 十四日：東資協青年部総会
- 十九日：小平市ごみ減量実行委員会
- 二〇日：東村山市廃棄物減量推進員会議（講演）
- 二三日：広報委員会
- 二六日：小平市廃棄物減量等推進審議会
- 二七日：青年部総会

編集後記

本年は、当組合創立二五周年の節目の年にあたり、創立以来ご指導、ご協力を頂きました皆様にご厚く御礼申し上げます。

そして、新年会にもご臨席頂いた全原連の栗原理事長の叙勲の報には、同じ業界人として大変名譽で嬉しく思います。本当におめでとうございました。

一方で、悲しいニュースも続きました。新年会でお会いするのが最後になってしまった西内センタ―長の突然の訃報には本当に耳を疑いました。また、当組合賛助会員で東京硝子原料問屋協同組合の菅澤理事長の訃報にも触れることになりました。お二方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

さて、組合創立一〇周年から今日までは業界的にも今までにない安定期だったのではないかと思えます。ですが、これから先の一〇年は、資源物の市場的にも、委託業務も民間の仕事も厳しい時代に入っていくと考えています。組合としては、今まで以上にサービスと品質と安全の向上を目指し、たゆまぬ挑戦をして参ります。関係各位の皆様には、変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、切にお願い申し上げます。（TKO）